



市長
池澤 隆史市長

中学生 × 市長

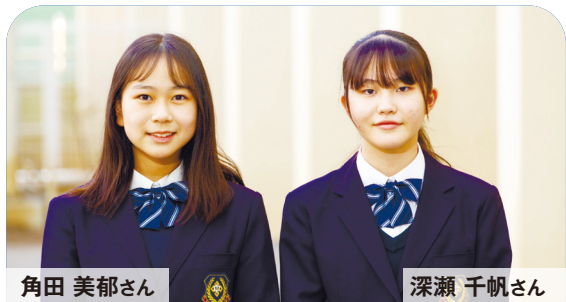
ともに考える 環境にやさしいまちづくり

市では、次世代を担う子どもたちにより良い環境を残すため、市全体で脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

積極的に優れた環境活動を行い、「にしとうきょう環境アワード」を受賞した中学生と一緒に日頃からできる環境への取組を通じて、『#ミライのために「今」でできること』を考えました。

「にしとうきょう環境アワード」で表彰された取組とはどのようなものですか？

第3学年



角田 美郁さん

深瀬 千帆さん

私たちは2つの活動をしました。「使い捨てカイロの回収」は使用済みの使い捨てカイロを集め、中に含まれる鉄で池や川の水を浄化している大阪府の企業に送る活動です。そして「古着deワクチン」は不要になった衣類や服飾雑貨を回収してリサイクルし、ポリオワクチンを届けようという取組です。



Q1 なぜこの取組をしようと思いましたか？

深瀬さん 1年生のときの総合的な学習の時間で、SDGsについて学んだことがきっかけです。校外学習ではSDGsに取り組む神奈川県横浜市の企業を訪問し、実際に社会で活躍されている方にお話を伺いました。世界の状況やさまざまな課題を考えて解決しようとする人たちの存在を知り、自分たちも力になりたいと考えるようになりました。そこで1年生のときの学級委員会で取組めそうな



深瀬さん／角田さん

生徒会本部



西谷 温乃さん

渡辺 一花さん

私たちは「エコキャップ運動」に取り組みしました。ペットボトルのキャップを集めてリサイクルし、発生した利益を発展途上国のワクチン接種費用として寄附しています。リサイクル、CO₂削減、ワクチン支援のほかにリサイクルの過程で障害者の雇用も生み出しています。



活動を調べたところ、「使い捨てカイロの回収」や「古着deワクチン」をやることになりました。

渡辺さん 「エコキャップ運動」は家庭科の先生が授業で話してくれたのがきっかけです。プラスチックごみ問題が話題になっていて、私たちの身近で貢献できることだと思ったので始めました。

家庭科では、SDGsに関する授業もたくさんしていただき、その中でも衣服の大量生産、大量消費の授業は「古着deワクチン」の取組につながったと思います。

江副さん 田無一中には花壇が少なく、花がいっぱい咲く学校にしたいと思いました。また、それが環境問題を考えるきっかけになるのではないかと考えました。

「牛乳パックから和紙作り」は、毎日飲んでいる牛乳パックを自分たちでもリサイクルできることを知り、取り組んでみました。SDGsの目標12に「つくる責任、つかう責任」があり、自分たちが使っていたものについても責任を持ちたいと思いました。

市長 ありがとうございます。最初の深瀬さんの

IJ学級



江副 光留さん

阿部 蒼太さん

私たちは「花いっぱい運動」と「牛乳パックから和紙作り」に取り組んでいます。「花いっぱい運動」では、プランターに花を植えて校舎の玄関に置いています。植物を育てることで地球温暖化と植物の関係について学びました。「牛乳パックから和紙作り」は、リサイクル意識を高めることを目的に行っています。



話では、企業を訪問して実際にSDGsに取り組んでいることに気づいて自分たちもやってみようと思えたのだと思います。渡辺さんの活動は、衣服の大量生産・大量消費を授業で学んでワクチンにつながっていくという、まさに1つの気付きですね。江副さんの話で出た「つくる責任、つかう責任」は企業だけでなく市や市民の皆さんにも当てはまる重い言葉だと思います。

Q2 どんな点を工夫しましたか？

角田さん 「使い捨てカイロの回収」は誰でも参加できるように、そして強制することなく、自分たちが楽しみながらできることを意識しました。回収箱の設置場所も、階段の前に置くことで帰り際にみんなが入られるようにしました。最初は学年内での取組だったのですが、中央委員会で報告すると当時の先輩方も協力したいとおっしゃってくださったので、他のフロアにも回収箱を設置しています。